

内閣府青年国際交流事業

2023年 事後活動ニュース



内閣府青年国際交流事業はあなたの飛躍を応援します！

CONTENTS

P.1 内閣府青年国際交流事業 事後活動について

IYEO会員の活動

P.3 地方行政におけるSDGsの活用を推進する高木超さん

P.4 仕事と並行した活動で民間外交を担う伊藤洋平さん

グローバルな活動

P.5 第14回SWYAA国際大会 (GA) オマーン

P.7 スペインの緑化再生への貢献～SWY Forest

P.8 日本ASEAN友好協力50周年を記念した活動

P.9 第19回日韓交流連絡会議

P.10 【祝】令和5年秋の叙勲(タン・スン・ホー氏)

ローカルな活動

P.11 日本・韓国青年親善交流事業(地方プログラム)

P.12 第47回「東南アジア青年の船」事業(地方プログラム)

P.13 青少年国際交流事業事後活動推進大会

P.14 ブロックイベント開催報告(R4愛知県、R5大分県)

P.15 山形県IYEOの活動/鹿児島県IYEOの活動

P.16 ブロック合同壮行会/知事表敬訪問

P.17 IYEO Learning Program

P.18 IYEOオンボーディング/IYEOキャリアデザインセミナー

P.19 SWY Connect!

内閣府青年国際交流事業 事後活動について

1. 事後活動とは

内閣府青年国際交流事業に参加した青年（既参加青年）には、事業に参加して得た経験をその場限りのものとせず、事業参加後の活動に結びつけ、広げていくことが期待されています。実際に、多くの既参加青年たちが、事業参加後もその属する地域や職域など社会の各分野において、事業参加によって得た知識や経験、人脈をいかして、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。内閣府では、事業で得た学びを広く地域社会や国際社会に還元することを目的とした社会貢献活動を「事後活動」と呼び、既参加青年の活動を支援しています。

2. 事後活動を支える日本青年国際交流機構（IYEO）と世界的な人的ネットワーク

日本青年国際交流機構（IYEO：International Youth Exchange Organization of Japan）は、この「事後活動」に取り組む既参加青年の全国的組織として、1985年に設立されました。2023年度も「共生社会の実現に向けて、生きる力を発揮しよう」をその活動方針とし、47都道府県に支部を置きながら地域に根差した国際交流活動や青少年育成活動、パラスポーツ振興支援など、その豊富な人材とネットワークを駆使して、内閣府と連携しながら様々な活動に継続的に取り組んでいます。

また、海外においても、40を超える国々で外国参加青年の事後活動組織が設立され、各国独自の社会貢献活動が行われています。こうした事後活動を支えるネットワークの下、既参加青年は、同じ関心を持った青年と世代、地域、国を超えてつながることができるほか、IYEO自主活動サポート助成金制度（チャレンジファンド）等を活用するなどし、熱意やアイディア次第で取り組みたい活動をすることができます。

なお、これら事後活動組織による活動はもちろんのこと、既参加青年一人一人が自身の社会活動などにおいて、事業参加によって得たものをそれぞれのやり方で社会に還元することもまた「事後活動」です。





3. 内閣府青年国際交流事業 2023年 事後活動ニュース

本事後活動ニュースは、2023年に既参加青年が各々の住む地域や職域等で取り組んだ事後活動の一部を主に紹介するものです。

(1) IYEO会員の活動

本事業の参加によって得られた経験や学びを自身のキャリア形成にいかし、現在、行政・ビジネスの第一線で活躍している既参加青年を紹介します。

(2) グローバルな活動

事業の長い歴史の中で培われた世界的な人的ネットワークの活動として、「東南アジア青年の船」事業の事後活動組織であるSI (SSEAYP International)、「世界青年の船」事業の事後活動組織であるSWYAA (Ship for World Youth Alumni Association)、日本・韓国青年親善交流事業の事後活動組織の活動をそれぞれ報告します。

「世界青年の船」事業事後活動組織については、主に、コロナ禍を経て4年ぶりに対面開催されたオマーンでの国際大会を取り上げ、本大会に参加した既参加青年からの声を紹介します。「東南アジア青年の船」事業事後活動組織については、植林に関する取組を御紹介すると共に、令和5年秋の叙勲を受章されたタン・スン・ホー氏についても取り上げます。また日本・韓国青年親善交流事業の事後活動組織については、コロナ禍を経て3年ぶりに対面開催されたソウルでの第19回日韓交流連絡会議の様相を紹介します。

(3) ローカルな活動

都道府県IYEOでは、各地域で次世代の人材育成、地域の国際交流及び国際親善の促進のための様々な活動を行っています。今年度の活動の中から、内閣府青年国際交流事業における地方プログラムと全国4ブロックで行われた推進大会及びブロックイベント（青少年国際交流を考える集い）の取組を紹介します。

さらに、IYEO会員は個人のレベルでも、各地域、職域、学校、青少年団体等で様々な活動を行っています。IYEO会員が自主的にチームを結成し、キャリアデザインセミナーの活動をしている事例や、事後活動への参加や活動そのものの活性化を目指すオンボーディングの事例、国内の「世界青年の船」事業の同窓会であるSWYコネクトを開催した事例を紹介します。



地方行政におけるSDGsの活用を推進する 高木超さん



たかぎこすも
高木超さん

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教
平成27年度
「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」

大学卒業後はNPO等を経て、神奈川県大和市役所の職員として住民協働等の業務に従事していました。「世界青年の船」事業（以下、事業）に参加したのは、社会問題への意識や、課題解決能力について、世界中から集まる優秀な青年と自分との間に、どの程度の差があるのかを明らかにし、その後のキャリアについて考える機会にしたかったからです。

■船内でのセッションをきっかけに団体設立

事業の後半に実施された「事業後の社会貢献活動」を考えるセッションで、採択されて間もない「持続可能な開発目標（以下、SDGs）」などについて議論を行いました。これを機に、ミレニアル世代の若者によるSDGs達成に向けたアクションを後押しする団体「SDGs-SWY (Shift Our World by the Youth)」を仲間とともに設立することができました。同団体は、本事業の既参加青年であるヘレン・クラーク元国連開発計画（UNDP）総裁をはじめSDGs達成に向けて活躍する第一人者のインタビューを行い、その模様を記事にして発信したほか、国際会議への参加等を通じて、若者がSDGsに係る意思決定の場へ参画する機運を醸成しようと取り組みました。その活動が評価され、省庁や経団連等から構成される「ジャパンSDGsアクション推進協議会」に参画するなど、設立から数年で幅広く認知される団体になりました。

■SDGs活用に関する研究の道へ



「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」参加中にスリランカの青年と

私自身は平成29年（2017年）に市役所を退職し、米国で「地方行政におけるSDGsの活用」に係る研究を行い、帰国後は令和元年（2019年）から現職で研究を続けています。研究の成果は書籍の出版や講演活動のほか、内閣府地域活性化伝道師、総務省地域力創造アドバイザー、川崎市、鎌倉市、亀岡市等の自治体におけるアドバイザーや委員等の業務を通じて、現場に還元するよう努めているところです。

本事業で培った国際的な視野や経験を活かし、海外の自治体にも積極的に研究成果を伝えているほか、最近では拙著が台湾で翻訳出版されるなど、様々な機会を捉えて「世界中の地方政府のガバナンス向上に貢献する」という目標を今も追いかけています。



国内外の自治体・議会等で講演や研修を実施
（令和元年（2019年）6月）



自治体学会賞受賞
（令和5年（2023年）8月）



著書「SDGs×自治体 実践ガイドブック 現場で活かせる知識と手法」が台湾で翻訳出版

仕事と並行した活動で民間外交を担う 伊藤洋平さん



いとうようへい
伊藤洋平さん

株式会社みんなのまちづくり代表取締役
平成21年度
第31回日本・中国青年親善交流事業

高校生の頃から中国に興味はありましたが、関わるきっかけがありませんでした。日本・中国青年親善交流事業に参加したのは、社会人になった公務員時代です。事業に参加してよかったのは、意識の高いメンバーに囲まれ、自分も成長しようという刺激を受けられたことです。スキルとしての中国語はもちろん、中国でのコミュニケーションの取り方やマナーといったプロトコル、グループの状況を見ながら動くといった団体運営についても学ぶことができました。特に、国の事業だからこそ、事前研修中の日本国内でのレセプションや中国での要人訪問を経験でき、公の立場での中国との接し方を知る機会になりました。

事業参加がきっかけで中国とのつながりができ、その後の人生での中国との接点が大きく広がりました。公益社団法人日本中国友好協会から奨学金をいただき、中国へ留学することができたのもその一つです。

■まちづくりと日中間の民間外交を並行して実践

仕事でなく、草の根の一市民としての立場で中国と関わろうと考えていたので、仕事は全く異なる分野でのキャリアを歩んでいます。もともと自分たちのまちは自分たちでつくるという思いから、まちづくり分野に関心がありました。多摩市役所で地方公務員として働いた後、平成28年(2016年)に株式会社みんなのまちづくりを創業し、生涯活躍のまち事業を中心とした地方創生の取組みを展開するようになりました。

令和2年(2020年)には官民連携のまちづくり法人である一般社団法人まちのtoolboxを設立し、代表理事に就任しました。これまでの代表的な取組みとしては、空き家だった団地を移住者向け住宅として運営している長野県佐久市のホシノマチ団地事業等があります。自治体との仕事が多いので、その中で中国との友好都市提携をしたいという要望を聞くこともあります。仕事とは別になりますが、公益社団法人日本中国友好協会理事・事務局長、認定NPO法人東京都日本中国友好協会理事長を務め、民間外交分野の担い手として活動をしています。



渉外として日本・中国青年親善交流事業に参加(平成25年(2013年))

■恩返しの気持ち

本事業への参加は、大きな転機となりました。帰国後も継続して活動をしているのは、訪問した中国のみなさんへの想いも含めて、感謝の気持ちが根底にあります。事業参加10年以上が経過した立場だからこそ、その恩をどう返していくか、これからも考えていきたいと思います。



事業参加後も中国語に関わる経験をシェア(令和元年(2019年))



団長として東京都日中友好都市青年訪中団を組織(令和5年(2023年))

グローバルな活動 第14回SWYAA国際大会 (GA) オマーン



令和5年(2023年)11月4日~11月9日、「世界青年の船」(SWY)事業の既参加青年ネットワークである「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)の第14回SWYAA国際大会(GA)が、オマーン国のマスカットで開催され、25か国より153名が参加しました。以下に、IYEOを代表して派遣された山田あゆみさん(平成22(2010)年度第23回「世界青年の船」事業既参加青年、長崎県IYEO)からの報告を一部抜粋して掲載します。



盛りだくさんのプログラム



山田あゆみさん

開会式では、Ship for World Youth Committee Omanのアーディル・アッシャーンフリ会長、藤森俊輔内閣府青年国際交流担当室参事官による挨拶等があり、ハリッド・ビン・ハシル・ビン・モハメッド・アル・ムスラヒ外務次官(行政・財務担当)による開会宣言が行われました。

初日のアイスブレイキングでは、誕生月毎にグループに分かれたり、各自配布されたクレヨンの色毎にグループに分かれたりして参加者同士が知り合うことができました。11月5日のマスカット旧市街視察では、オマーンの歴史や伝統文化について学び、6日には、課題別施設訪問が行われました。

7日にはSDGsについてのワークショップが開催され、教授や関係者のレクチャーを聞き、ディスカッションを行いました。各国のSDGsを巡る状況についても知り、地元の学生とも交流できる貴重な機会でした。

事後活動協議会では、10か国から活動報告がなされ、日本からは、IYEOによる内閣府事業での地方との連携に関してやIYEO未来創造会議等についての発表を私(山田あゆみ)が行うとともに、藤森内閣府参事官がプログラムの特徴やスケジュール、SWY35における変更点について説明を行いました。

月日	日程
11月4日(土)	参加者到着 アイスブレイキング
11月5日(日)	マスカット旧市街視察(マトラスーク、マトラフォート、オマーン国立博物館、アラム王宮) 開会式
11月6日(月)	課題別施設訪問(1施設を参加者が選択: ロイヤル・アカデミー・オブ・マネージメント、ロイヤル・オペラ・ハウス、アムアージュ、オマーンテル本社とイノベーション・ラボ) オマーニナイト
11月7日(火)	SDGs ワークショップ 事後活動協議会
11月8日(水)	スルタン・カブース・グラッドモスク訪問 SWY活動(SWYトーク) フェアウェルパーティ
11月9日(木)	参加者解散 (希望者はオプションツアー(スール・パディヤ・ニズワ)参加)



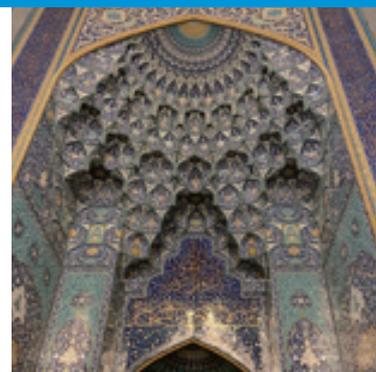
アイスブレイキングで他の参加者と知り合う



オープニングセレモニーでの藤森俊輔内閣府青年国際交流担当室参事官によるスピーチ



オマーンテル本社を訪れ、起業家支援についての説明を聞く



主催者の対応に感動

今回の大会を成功へと導いた30名以上のSWYオマーンの主催者たちは、常に参加者を楽しませようとしていて、そのホスピタリティに日々、感動しながらGA期間を過ごしました。彼らはいつも「自分たちも一緒に楽しんでいるし、みんなが楽しんでくれることが何よりも嬉しい」と言っていて、運営する側がどんな時も楽しむ気持ちを忘れないことが大切であること、そしてその姿勢や気持ちは参加者にも伝わることを改めて教えられたように思います。

同じ事業に参加したからつながることができた

GAは、国を超えて様々な世代の既参加青年と交流することができる素晴らしい集いです。年齢もそれぞれのバックグラウンドも関係なく、同じ立場でフラットに交流できる機会はなかなかありません。SWYという経験を共有しているからこそ、初対面でも安心して様々な話ができるように感じました。参加年度を超えて、国を超えて、同じSWYプログラムに参加した既参加青年であるという事実が、人をここまでつないでくれるということを体感するとともに改めて事業に参加して得たものの大きさを知りました。事業参加の大きな利点の一つは、事業参加後にも人と人とのつながりがますます広がっていくこと、つまり、世界に広がるSWYネットワークに参加できることだと感じています。

もっと優しい世界にするために

GAに参加して、SWYの精神を持った人であふれる世界を作ることができたら、世界はもっと優しく、面白く、美しい場所になるだろうと思いました。皆が皆、事業に参加することはできませんが、参加者が事後活動を通じて、SWYの空気感—それぞれのバックグラウンドや文化や慣習、価値観の違いを認め合い、尊重し合いながら、互いを大切にしようというポジティブな空気感—を各自の活動を行っている場所で生み出し、広げることができたらどんなにいいでしょう。この実現のためにも、世界の既参加青年同士の連携が重要だと考えています。



荘厳なロイヤル・オペラ・ハウスを視察



SWYに参加して人生がどのように変わったかを語るSWYトーク



1983年に設立された国際的な高級香水ブランド「アムアージュ」を視察



オマーニナイトでヘナタトゥー（ハーブの色素を用いた伝統的なボディアート）を体験する参加者



フェアウェルパーティの「SWYタレント」でソーラン節を披露する日本参加者

グローバルな活動 スペインの緑化再生への貢献～SWY Forest



令和5年(2023年)10月7日に、スペイン既参加青年によるSWY Forest(植林活動)が実施されました。今回の植林は、平成17年(2005年)大火災に見舞われたスペイン、カスティーリャ・ラ・マンチャ州グアダラハラ県の広大な松の森、合計1万3千ヘクタールの緑化再生活動の一環として行われました。本活動はAdopt a tree財団の協力、SWYAA国際連盟より5,000米ドルの寄付金、SWYAAスペインより530ユーロの寄付金を受け、実現したものです。

参加希望者の事前登録は100名を超え、当日は70名、うち既参加青年は8名の参加がありました。また実施については、駐スペイン日本国大使館へも正式にお知らせしました。

植林に必要な道具はAdopt a tree財団のスタッフより貸与され、植林方法については現地で詳しく説明がありました。当日は松、樺、トネリコを植林し、目標植樹数900本のうち350本を植えることができました。また、残りは地域の学校や青少年団体によって植林されることとなりました。

活動当日はSWYAAスペインによる歓迎スピーチの後、SWY Forestプロジェクト、「世界青年の船」事業、Adopt a tree財団の紹介が行われました。その後、植林エリアまで4キロほど、財団の方の説明を聞きながらハイキングし、2時間ほど植林活動が行われました。この活動を記念して、植林されたエリアには記念プレートが設置されました。

昼食後は、日本の七夕のように参加者の願いを書いた短冊を桜の木に付ける「Tree of wishes」、日本既参加青年が参加者の名前を日本語で書く「Names in Japanese」、折り鶴の折り方を学ぶ「Origami」、自然の中に設置されたアスレチック型の野外活動を行う「Adventure park」、植物の種の植え方やどのように植物が成長していくかを学ぶ「Tree workshop」と、五つの小グループに分かれてそれぞれ活動を行いました。

本活動は事前に多くの新聞に取り上げられ、当日は地元のテレビ局2局より密着取材を受けただけでなく、COPEラジオ局でのインタビューもあり、駐スペイン日本国大使の個人Xアカウントにおいても紹介されました。

「SWY Forest」とは?

「世界青年の船」事業の第20回を記念した事後活動の一つとして立ち上がった「SWY Forest」プロジェクトは、オリジナルロゴを既参加青年から募集の上Tシャツを制作、販売し、制作経費を除く全額を世界での植林活動に充てるものです。この植林活動は平成20年(2008年)(インドネシア・バリ)、平成25年(2013年)(日本・岩手県)に続く第3弾で、平成元年(2019年)にSWYAA国際連盟加盟国の中から投票によりスペインが選ばれ、コロナ禍を経て令和5年(2023年)に実現しました。



秋ながら強い日差しの中で植林



植林の記念プレート贈呈。参加者と財団職員の皆さんを前に実行委員のパロマ・フェルナンデスがスピーチ



寄付金で作成した活動物品(鉛筆の先に種が埋め込まれており、土に植えると発芽する)

グローバルな活動 日本ASEAN友好協力50周年を記念した活動

日本ASEAN友好協力50周年を迎えた令和5年(2023年)、SSEAYPインターナショナル加盟各国で様々な活動に取り組みました。その中から、令和5年(2023年)10月7日にフィリピンとシンガポールで実施された植林活動をご紹介します。

■フィリピン



AMPOの地元の青年ボランティアと共に(フィリピン)



植林活動をする青年ボランティア(フィリピン)

SSEAYPインターナショナル・フィリピンでは、ネグロス・オリエンタル州ドゥマゲテ市において11,000本のマングローブを植林しました。マングローブ植林機関連盟(AMPO)がネグロス島で推進する、10年間で1,000万本のマングローブ植林をしようという活動の一環として、事前にUSD1,700の寄付金を集めると共に、当日は、フィリピン全国各地から集まった「東南アジア青年の船」事業既参加青年15名が、300名以上の地元の青年ボランティアと一緒に植林活動に参加しました。マングローブ植林は、土壌侵食を防ぎ生物多様性を守る効果があり、ASEANと日本の豊かな海と陸をつなぐ役割を果たします。今回植林をした11,000本のマングローブは、その1,000本ずつがそれぞれ日本とASEAN10か国を象徴するとともに、日本ASEAN友好協力50周年の今年における日本とASEANの友好協力も象徴しています。

■シンガポール



エイミー・コー持続可能性・環境省上級国務大臣、石川浩司駐シンガポール日本大使と(シンガポール)



参加した歴代「東南アジア青年の船」事業既参加青年(シンガポール)

SSEAYPインターナショナル・シンガポールでは、シンガポール政府が主導する「シンガポール・グリーン計画2030」という2030年までにシンガポール中に100万本の植林を目指す活動の一環として、日本ASEAN友好協力50周年を記念した50本の植林を行いました。当日は、エイミー・コー持続可能性・環境省上級国務大臣、石川浩司駐シンガポール日本大使及び東南アジア各国大使ご臨席のもと、数多くの「東南アジア青年の船」事業既参加青年が参加しました。

グローバルな活動 第19回日韓交流連絡会議



各自の名札に入っている写真の断片と同じものを持っている人を探すアイスブレイク



指定の目的地で決められたポーズをする写真撮影ミッション。このグループはソウルアニメーションセンターにてハートポーズ



グループごとにテーマを決め、テーマに沿った自分だけのしおりを作る共同制作

日韓交流連絡会議は、日本・韓国青年親善交流事業に参加した日本・韓国両国の既参加青年を中心とした同窓会組織です。平成16年(2004年)に第1回日韓交流連絡会議が開催され、コロナ禍でのオンライン開催も挟みつつ、現在まで毎年日韓どちらかで宿泊形式での交流会を実施してきました。日韓両国の青年たちが国際交流事業で得た日韓の絆を保つとともに、国と世代を超えて、長い期間での日韓交流のネットワークを構築していくことを目的としています。

第19回となる今回は、コロナ禍のためオンライン開催となった2年間を乗り越え、久しぶりのオフライン開催となりました。「久しぶりと、はじめまして」というテーマのもと、日本青年16名・韓国青年20名、計36名のOBOGがソウルに集い、1泊2日の日程で世代を超えた交流を楽しみました。

1日目は、名札に入った写真の断片から同じグループの人を探す「アイスブレイク」、日韓交流に関する質問リストを使用した「トークセッション」、明洞の街中に繰り出して目的地で指定されたポーズの写真撮影の「写真撮影ミッション」を実施しました。

2日目は、グループごとのテーマに沿って自分だけのしおりを作る「共同制作」、過去の日韓交流連絡会議の歴史を写真で振り返ったり参加者の感想を聞いたりする「閉会式」を実施しました。

毎年、開催場所も実行委員会も日韓交互に行ってきましたが、今回は初の試みとして日韓合同での実行委員会を立ち上げ、半年以上前からオンライン会議を重ね、準備をしてきました。久しぶりのオフライン開催ということもあり、期待と不安が半々ではありましたが、今回のテーマの通り、3年半ぶりにオフラインで会う方にとっては「久しぶり!」、コロナ禍のオンライン事業のOBOGと、それ以前の派遣事業のOBOGが初めて対面する「はじめまして!」、オンラインでは交流したけど実際に会うのは初めてという方の「久しぶり、だけど、はじめまして!」が交わされる、とても良い交流会となりました。



初の試みとして日韓合同(日本青年6名、韓国青年4名)で立ち上げた実行委員会



【祝】令和5年秋の叙勲 タン・スン・ホー氏



タン・スン・ホー氏

昭和55(1980)年度
第7回「東南アジア青年の船」事業
シンガポール既参加青年



令和5年(2023年)、第7回「東南アジア青年の船」事業43周年で訪日し、同期の参加青年と

令和5年秋の叙勲において、第7回「東南アジア青年の船」事業のシンガポール既参加青年であるタン・スン・ホー (Mr. Tan Soon Hoe, BBM, PBM, PBS) 氏が、日本とシンガポールを始めとするASEAN各国との間の青年交流の促進及び友好親善に寄与した功労を讃えられ、旭日双光章を受章されました。

これまでに旭日双光章を受章した「東南アジア青年の船」事業既参加青年は、合計5名となりました。

タン・スン・ホー氏は、昭和55年(1980年)の第7回「東南アジア青年の船」事業にシンガポール参加青年として参加した後、シンガポールの事後活動組織であるSSEAYPインターナショナル・シンガポール(以下、「SIS」という。)の会長として、平成2年(1990年)から平成10年(1998年)まで及び平成14年(2002年)から平成20年(2008年)までの計約14年間、日本とASEANとの友好交流活動に尽力しました。なお、同氏は長年にわたる日本・シンガポール間及び世界各国との青年交流の促進に寄与した実績が認められ、平成12年(2000年)にはSSEAYPインターナショナル賞(SSEAYP International Award)を受賞されています。



平成4年(1992年)、SIS会長としてシンガポールで開催したSSEAYPインターナショナル総会(SIGA)

【タン・スン・ホー氏からのメッセージ】

2023年に旭日双光章受章という大変な栄誉を受け、大変光栄です。多大な貢献で活動を支えてくれたSISの歴代会長・役員・ボランティアの皆さんに感謝します。これまで、日本とシンガポール及びASEAN各国の友好と相互理解を促進するため、数多くの青年交流活動に取り組んできた彼らの尽力がなければ、今回の受章はありませんでした。

2023年は、日本ASEAN友好協力50周年を迎え、日本とASEANのこれまでの交流、特に「東南アジア青年の船」事業を通じた青年国際交流を振り返り、今後の更なる友好協力に向けて再出発するのにふさわしいタイミングだと言えます。

これまで47回にわたり「東南アジア青年の船」事業を主催してきた日本政府、及び共同事業として取り組み各国での寄港地活動を実施してきたASEAN各国政府、そして、1974年以来全ての参加青年に豊かな体験をもたらしてくれた各国の数多くのホストファミリーの皆さんに感謝します。

ローカルな活動 日本・韓国青年親善交流事業（地方プログラム）

令和5年度日本・韓国青年親善交流事業（韓国青年招へい）が令和5年（2023年）8月22日から9月5日までの15日間の日程で行われました。団長、副団長、通訳を含む韓国青年代表団30名は、東京都、富山県、青森県を訪れ、地元青年との交流やディスカッション、ホームステイ等を行いました。

本ページでは8月27日～9月3日に実施された地方プログラムについて報告します。

■富山県

富山県では、表敬訪問や地元青年とのディスカッションの他、高岡市内にて、伝統産業の継続をテーマとした「高岡プログラム」を実施し、施設等の見学や伝統産業体験等を行いました。

8月27日（日）	・ オリエンテーション
8月28日（月）	・ 松井邦弘富山県子ども家庭支援監表敬訪問 ・ 富山市の出前講座（富山市のSDGs取り組み「SDGs未来都市」について） ・ 地元青年とのディスカッション及び交流 ・ 歓迎交流会
8月29日（火）	・ 地元青年とディスカッション及び交流 ・ 株式会社タニハタ訪問、組子細工づくり体験
8月30日（水）	・ 高岡プログラム（高岡大仏、高岡御車山会館等） ・ イタイタイ病資料館訪問



松井邦弘富山県子ども家庭支援監を表敬訪問する



株式会社タニハタにて、組子作りを体験する

■青森県

青森県では、表敬訪問や裂織ワークショップの他、訪問先の小学校での児童との交流や二泊三日のホームステイ等を行いました。

8月31日（木）	・ オリエンテーション
9月1日（金）	・ 青森市立北小学校訪問 ・ 小谷知也青森県副知事表敬訪問 ・ 裂織ワークショップ ・ 歓迎会
9月2日（土）～ 9月3日（日）	・ ホームステイ



小谷知也青森県副知事を表敬訪問する



青森駅にて、ホストファミリーや地元関係者とともに記念撮影をする

ローカルな活動 第47回「東南アジア青年の船」事業 (地方プログラム)

第47回「東南アジア青年の船」事業が令和5年(2023年)11月29日から12月8日までの10日間の日程で行われました。12月1日～12月4日に実施された地方プログラムでは、ASEAN9か国及び日本の参加者の合計120名が、グループに分かれて山形県、山梨県、愛知県、長崎県、鹿児島県を訪れ、地元青年とのディスカッション、ホームステイ、県庁への表敬訪問、施設見学等を行いました。

■山形県



山形県庁表敬訪問時に花笠踊りを鑑賞する参加青年



「けん玉ひろばスパイク」のスタッフでけん玉ワールドカップ2018ワールドチャンピオンから手ほどきを受ける

■山梨県



「山梨の現状から未来を考える」をテーマに地元青年とディスカッションする



株式会社印傳屋を訪れ、甲州で400年にわたって受け継がれてきた伝統工芸について学ぶ

■愛知県



トヨタ産業技術記念館を訪れ、日本の自動車産業等について説明を受ける



書道体験を通じて日本文化を学ぶ

■長崎県



長崎原爆資料館を訪れ、長崎への原爆投下について説明を聞く

■鹿児島県



鹿児島の踊り「おはら節」を体験



ホストファミリーと対面する参加青年



足湯を体験する参加青年

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第39回全国大会



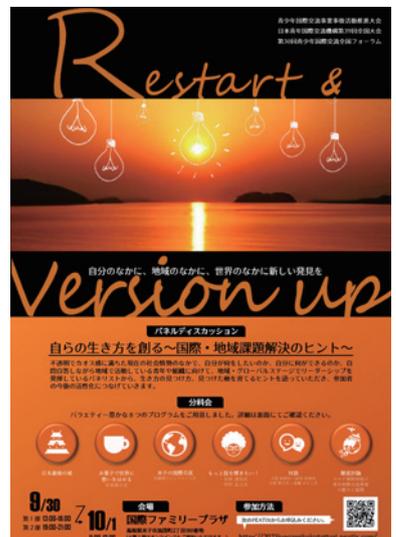
令和5年(2023年)9月30日、鳥取県米子市にて、青少年国際交流事業事後活動推進大会(日本青年国際交流機構第39回全国大会)が、ハイブリッド形式で開催されました。「Restart & Version up～自分のなかに、地域のなかに、世界のなかに新しい発見を～」をテーマとして掲げた本大会には、日本全国各地及び海外から140名を超える多くの方が参加しました。

第1部では、「自らの生き方を創る～国際・地域課題解決のヒント～」というテーマで、地域およびグローバルステージで活躍し、リーダーシップを発揮している6名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。どのパネリストもそれぞれ個性的で、魅力的な体験について熱く語られました。参加者にとって、生き方の見つけ方や見つけた種を育てるヒントとなっただけでなく、今後の事後活動の活性化につなげるきっかけとなりました。

その後、オンラインも含めて八つの分科会に分かれ、パネルディスカッションでの学びを深めました。

第2部は、昨年度参加青年の事業参加報告に始まり、懇親意見交換会では、それぞれが今注力している事後活動の話などで盛り上がりました。翌日は、鳥取の街を満喫する三つの地域理解研修も実施されました。

コロナ渦を経て4年ぶりに対面形式を復活させての再スタートとなった本大会については、事後活動の意義を再確認する場とするとともに、事後活動を途切れることなく承継するにふさわしい大会とすることを目指して準備をしました。本大会を通じて、参加者が持つ経験や知見が、地域での取り組みや特色ある文化・産業等に照らし合わされ、意見交換を通じてそれがブラッシュアップされることでより一層その魅力や能力が引き出されること、そしてそれが、青少年育成活動や各地域の発展に寄与する活動に結び付くことを願っています。



9月30日(土)	
13:00-13:30	第1部開会式
13:30-13:45	記念撮影
13:45-15:30	パネルディスカッション
15:30-15:45	休憩
15:45-17:30	分科会
17:40-18:00	第1部閉会式
19:00-19:10	第2部開会式
19:10-19:30	事業参加報告会
19:30-21:00	懇親意見交換会
10月1日(日)	
8:30-12:30	地域理解研修オプションツアー 集合、出発(各オプションツアーごとに)



パネルディスカッションで熱心に討議するパネリストの皆さん



分科会

ローカルな活動 **ブロックイベント開催報告**

青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい
令和4年度東海ブロック（愛知県）、令和5年度九州ブロック（大分県）

■令和4年度東海ブロック（愛知県）



令和5年（2023年）3月12日、愛知県名古屋市の名古屋プライムセントラルタワーにて東海ブロックイベントをハイブリッド形式で開催し、105名が参加しました。

大会テーマは「東海グローバルユースチャレンジャーズサミット」。10～30代の若手がさまざまなプログラムやプロジェクトに飛び込んだ体験談を、リレーピッチ方式で発表しました。参加者の活動を応援するとともに、さらなる飛躍のきっかけを得る機会となりました。

世界と世代と分野を超えて、これからの時代や地域に必要なものは何かを語り合い、国際的な視点からそれぞれの活動にいかす場にもなりました。

■令和5年度九州ブロック（大分県）



令和5年（2023年）12月3日、大分県大分市にて九州ブロックイベントを開催しました。対面での開催は4年ぶりとなり、関係者も含め50名を超える方が参加しました。大会テーマは、大分県での「船を使った青少年育成」と「外国人の暮らし」。基調講演では、大分県で40年以上続く「大分県青少年の船」事業にアドバイザーとして乗船された日本文理大学人間力育成センターのセンター長である高見大介氏が、船を用いた青少年育成の有用性と可能性についてお話されました。

実際の現場での体験談は、参加者にとって今後の青少年育成や国際交流活動でいかせる内容であり、大変有意義な時間となりました。

ローカルな活動 国際交流 遊佐ツアー（山形県 IYEO）

令和5年（2023年）7月22日～23日に、山形県遊佐町にて、県内各地に住む日本人・外国人がバス・自家用車で遊佐町に集い、海浜自然の家に滞在する「国際交流遊佐ツアー」を開催しました。山形県IYEOとしても新たな取り組みだった今回のツアー。梅雨明け直後の遊佐町に、県内各地からたくさんのファミリー、高校生、外国人の方、合計49名が集まりました。

思い返すと浮かんでくるのは、真っ青な晴天、きらきら光る水面、麓から見上げる鳥海山の山頂、そして何より参加者の皆さんの色とりどりの表情です。それぞれの感性で自然を味わいながら、一生懸命英語で伝える子どもたちと、それを優しく聞きながら歩調を合わせて歩く外国人の皆さんの姿が印象的でした。

「大きくなったらもう息子と一緒に参加することはできないから」とツアーへ応募された方もいましたが、IYEOの強みはそれぞれの世代にあった国際交流の形を提案できることです。このつながりの未来にワクワクしながら、また参加者の皆さんにお会いできる機会を作り続けられればと思います。



遊佐の海岸までのウォーキング、美しい夕日を鑑賞する参加者

ローカルな活動 フィリピン文化体験会（鹿児島県 IYEO）

令和5年（2023年）7月30日に、鹿児島県始良市の株式会社JOY WellBeClubにて、小学生とその親子を対象に、フィリピンの文化体験会を開催しました。このイベントでは、同施設のスポーツインストラクターであるソフィアさんを講師に迎え、フィリピンの文化紹介、英会話体験、そしてフィリピンの遊びを親子で楽しむことができました。

フィリピンの文化紹介では、実際の写真を見ながら、食文化や住まい、紙幣、そして伝統衣装の違いに触れ、参加者たちからは日本との違いに驚きの声が上がりました。

そしてフィリピンの遊び体験では、日本の鬼ごっこと陣取りゲームを組み合わせたアガワン・ベースを行いました。年齢や背景の違いを超え、子どもたちは楽しみながら交流し合っていました。イベントの最後には子どもたちから「フィリピンに行ってみたい」「友だちにフィリピンの文化を紹介したい」などの感想が寄せられ、フィリピンや海外へさらなる興味を抱いていました。



フィリピンの住まいについて説明を聞く親子



フィリピンの遊び「アガワン・ベース」を体験する子どもたち

ローカルな活動 **ブロック合同壮行会 (東海ブロック、近畿ブロック)**

日本青年国際交流機構 (IYEO) では全国を8ブロック (北海道・東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州) に分け、地域での活動にも力を入れています。本ページでは東海ブロックと近畿ブロックで開催された壮行会について報告します。

■東海ブロック

令和5年(2023年)9月24日、岐阜県岐阜市にて、令和5年度内閣府青年国際交流事業参加者のうち岐阜県、愛知県、三重県から4名を迎え、東海ブロック合同壮行会が開催され、8名が参加しました。事業に向けてのアドバイスやIYEOが実施している事後活動の紹介などを行いました。他事業への参加者との交流もあり、有意義な時間となりました。



■近畿ブロック

令和5年(2023年)9月23日、大阪府大阪市にて、近畿ブロックの令和5年度内閣府青年国際交流事業参加予定者を対象とした合同壮行会が開催され、24名が参加しました。新しく事業に参加される皆さんに研修参加にあたってのアドバイスや、それぞれの府県で行っている活動等の説明を行いました。



ローカルな活動 **知事表敬訪問 (京都府 IYEO)**

令和5年(2023年)9月22日、令和5年度内閣府青年国際交流事業に京都府から参加する青年4名が京都府の西脇隆俊知事を表敬訪問しました。

今年度京都府から事業参加する7名の青年のうち、当日は「世界青年の船」事業と日本・韓国青年親善交流事業に参加する4名が集まりました。

西脇知事から激励のメッセージをいただいた後、事業での訪問地や文化交流ワークショップの準備について歓談を行いました。緊張感のある雰囲気ではじめましたが、知事がフランクに話しかけてくださり、楽しく歓談することができました。

表敬訪問終了後には、4名の青年と同行したIYEO会員で交流を深めました。



ローカルな活動 IYEO Learning Program

IYEO Learning Programは、IYEO会員のスキルや経験をいかし、学ぶプログラムです。
IYEO会員の方を講師としてお招きし、オンラインイベントを開催しています。

世界で生きている日本人を集めてみた。ニューヨーク、バンコク、デンマーク

「東南アジア青年の船」事業の参加経験を経て、現在ニューヨーク、バンコク、デンマークでそれぞれ活躍している3名のプレゼンターから、海外に住むことになったきっかけや仕事について、また、日々の生活など、様々なトピックスを参加者の質問や疑問に答えながら話していただきました。「東南アジア青年の船」事業が人生にどのような影響を与えてきたかについてのお話もあり大変興味深い内容となりました。

<プレゼンター>

竹内紫保さん：第39回「東南アジア青年の船」事業参加、バンコク在住
中村秀輔さん：第42回「東南アジア青年の船」事業参加、デンマーク在住
菊地夏子さん：第44回「東南アジア青年の船」事業参加、ニューヨーク在住



世界一周学校 校長MaSaToが語る!「わたしをつくる冒険」

第21回「世界青年の船」事業に参加後、世界一周100か国の旅をして「世界一周学校」を立ち上げたMaSaToさん(中村正人さん)を講師にお迎えし、留学の経験や世界一周100か国の旅での経験についてエピソードを交えて話していただきました。MaSaToさんのこれまでのチャレンジや前向きな行動にとってもワクワクし、参加者にとっても前向きな気持ちになることができる時間でした。

<講師>

中村正人さん：第21回「世界青年の船」事業参加
現在、世界一周学校校長を務める



ボリビアへのキャリアにつながる私の選択~大切にしたいキーワード

JICAボリビア事務所でボランティア調整員として活動しておられる松山優子さんを講師にお招きし、ボリビアでの生活や人生でのキーワードについて話していただきました。ボリビアからの生中継でボリビアを身近に感じることができました。

<講師>

松山優子さん：第32回「東南アジア青年の船」事業参加



【参加者の声】

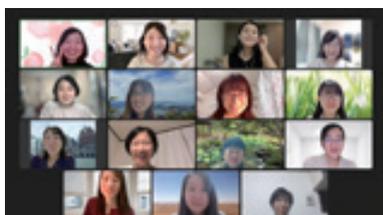
- ・ 現在、大学在学中で進路に迷っているのですが、考えている進路とこれまでの背景が講師に近いところが多く、非常に参考になりました。
- ・ 内閣府青年国際交流事業に参加して、多くの価値観に触れ、自分の人生の生き方を問い、そして自分の身近な人を幸せにすることにいかされていると思った。

ローカルな活動 IYEOオンボーディング

令和4年度より開始したIYEOオンボーディングは、令和5年度も内閣府青年国際交流事業参加青年に向けて、IYEOでの事後活動について身近に感じてもらい、事業参加後、IYEOでの活動に興味を持ち、事後活動に参画できるように取り組んでいます。事業に参加している段階から、IYEOについて知り、事業参加後にできることをイメージする機会を提供しています。

<主な取り組み>

- ・内閣府青年国際交流事業や事前・事後研修でのIYEO活動に関するセッションの開催
- ・IYEO主催のオンラインイベント「内閣府事業OBOGとゆるーくおしゃべりしませんか?の会」の開催
- ・IYEO事業担当幹事主催によるオンライン交流会の実施
- ・各都道府県IYEOでの表敬訪問やアドバイス会、壮行会等の実施



「内閣府事業OBOGとゆるーくおしゃべりしませんか?の会」の様子



内閣府青年国際交流事業 事前研修でのIYEOの説明セッションの様子



内閣府青年国際交流事業 事前研修にIYEO会員が揃って参加

ローカルな活動 IYEOキャリアデザインセミナー

内閣府事業に参加した後、「何か社会に貢献したい!」そんな想いを実現していく場所

「IYEOキャリアデザインセミナー」は、自分を知るところを起点として、自分がいる社会状況を理解し、その中で自分ができていることを考えて自発的に活動を起こしていくことを促す「自分軸」の研修です。

「これから社会に変化を起こしてみたい!」「でもどこからスタートしたらいいの?」「選択肢が多くて、何を選べばいいのかわからない」という思いに寄り添い、自分がやりたいことや自分について知る機会を提供し、理想の実現に向けて少しでも貢献できるよう、仲間と共に成長・発展していける全6回のセミナーを開催しています。



令和5年度のセミナーについて

講師に金澤浩さん(令和元(2019)年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」事業参加)をお迎えし、令和元(2019)年度～令和4(2022)年度の内閣府青年国際交流事業出身者10名が参加し、5月にセミナーがスタートしました。

セミナー前半では、ワークショップや参加者同士の対話などを通して、自己理解を深め、自分の現状や未来について参加者がそれぞれに向き合い、理解を深めました。

次に、自分の強みをいかす場や方法として、IYEOの説明や活動事例などを紹介。少人数のグループに分かれ、IYEO会員であるオーガナイザーがIYEOの組織や活動に関する疑問に答え、セミナー参加者がIYEOでやってみたいことについて考える機会となりました。参加者それぞれに寄り添いながら、IYEOでの活動に伴走していくことで、セミナー終了後の次のステップにつなげることがキャリアデザインセミナーのゴールです。

ローカルな活動 SWY Connect!



令和5年(2023年)10月14日、昨年度に引き続き、「世界青年の船」事業の既参加青年(以下SWYer)を対象とした同窓会「SWY Connect!」を実施しました。平成3(1991)年度(SWY4)から今年度事業(SWY35)の参加青年まで、100名を超える幅広い代の方々に加え、11名の様々なジャンルで活躍するSWYerにも登壇していただき、大盛況のうちに終えることができました。

今回のテーマは、「Spark the Future!」です。昨年度は、SWYer同士がつながるとというのが一つの大きなテーマでしたが、今回はつながるだけでなく、次へのアクションや未来に向けて化学反応を起こしてもらいたいという思いを込めました。人と人がつながり、そこから先の一步を踏み出す、アクションを起こすきっかけを作ることが今回のゴールでした。

全体のプログラムは、喜怒哀楽アイスブレイク、SWYerによるピッチ、グループ・ディスカッション、懇親会の4部構成でした。アイスブレイクでは、「喜怒哀楽」の四つの感情をもとに、自分自身について振り返るというアクティビティを行いました。そしてSWYerによるピッチでは、今回のSWY Connect!の大きな目玉である「次へのアクション」のきっかけ作りのため、多文化共生、地方創生、メディア等、多方面で活躍しているSWYerに声をかけ、ピッチ者として登壇してもらいました。その後のグループ・ディスカッションでは、気になる、または話したいと思ったピッチ者を参加者が選び、グループで自由にディスカッションを行いました。懇親会ではSWYerが歌や音楽で盛り上げてくれ、世代を超えて、多くの人同士が交流できました。同窓会終了後も、SWY Connect!のグループで情報のシェアがあるなど、今回の目的である「人とつながり、アクションにつなげる」ことが達成できたのではないかと考えています。



テーマごとにディスカッションタイム

内閣府青年国際交流事業

くわしくはこちら URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

内閣府青年国際交流

検索



内閣府青年国際交流事業 2023年 事後活動ニュース

発行日: 2024年2月29日

発行: 内閣府青年国際交流担当室

〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎8号館8階

TEL: 03-6257-1434 URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集: 一般財団法人青少年国際交流推進センター (Center for International Youth Exchange) URL: <http://www.centerye.org/>

編集協力: 日本青年国際交流機構 International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO) URL: <https://www.iyeo.or.jp/ja/>